

---

**手作りだから…汚くてゴメン。**

国後旺

---

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

手作りだから…汚くて「メン。

### 【著者名】

国後旺

N2925D

### 【あらすじ】

12月24日。今日は彼と、初めて過ごすクリスマス。でも、彼  
は信じられない提案をしたんだ…。（ジャンル：恋愛）

(前書き)

初短編です。

主人公達の年齢、外見上の特徴は、「敢えて」書きませんでした。  
では、どう（＜－＞）

- - 12月24日 - -

今日は今年、私が一番樂しみにしていた日。

私には彼氏がいる。

…付き合って一年も経っていないけど。その人と今日は一緒に過ごします  
予定だ。

…でも、彼は信じられない事を言つてきた。

その日の朝、彼から携帯に電話が掛かってきた。

〔…時間…まだ10時じやん……もう少し寝かせてよ、もう…〕

しかし、鳴り響く着メロ。

彼氏からなんだし…電話を切るのも悪い気がしたので、出でみた。

じぱり喋った他愛の無い話。

…でも、

何か大事な事を伝えたいような感じだったので、ちょっと聞いてみた。

「何か他に言いたい事があるの?」

そう聞けば早いのだが、色々と回り諂い言い方をして聞いた。何故か照れくさかったから。

すると、彼は観念したように言った。

「今日は俺の家で過ごさないか?」

はっきり言って失望した。

今日せっかくな一日にならなかった…やつかった。

夜。

私は今、彼の家の前にいる。ビルにでも在る、大きすぎず小さすぎない、普通の家だ。

実際に家の前まで来ると、不思議と「仕方ないか」とこいつ気が起る。

「本当なら彼と一緒に何処かに出掛けたがつたが、今年は彼がいる。それで我慢しよう。」と思つた。

彼の家のインターホンを押す。

家中から誰かが走つてくる音がある。

玄関ドアが開いた。中からの突然の光に一瞬、目がくらむ。

そこに彼はいて、「あがつて」といふので、従つた。

…流石にいつもとは違つた。何といふか落ち着きがない。迷子の子猫ちゃんのようだ。

リビングに案内された。

彼が突然クラッカーを鳴らした。ネタバレした簡単な一発ギャグを、百回訊かされた後のような空気が流れた。

その空気を諭つたらしく、彼は私に頭を下げて謝つた。ちゅ、そう

「……」

彼は私に椅子を用意してくれたので、とりあえず「ちよこさん」と座つた。

彼は台所にいて、ピンクと黒のエプロンを着けていた。なかなか似合っている。花の妖精さんのようだ。

やがて彼は、何かを持ってきた。彼が持ってきた物……それは……

ケーキ? だつた。ん? これケーキ?

「チーズケーキだよ」

彼が苦笑いを浮かべながら言つた。

あ、やっぱりケーキだつた……。それにチーズケーキらしい。ビニールでこんな色のチーズケーキを買ったのだろうか。……ん?

ふと、彼の指を見てみる。

絆創膏<sup>ばんさうじ</sup>が貼<sup>は</sup>られていた。それも……何枚も。

「……もしかして……」

「……作って…くれたの？」

彼は苦笑いしながら答えた。

「チーズケーキ好きって…言つてたから…

手作りだから…汚くてゴメン」

……………最悪だ…私…

「ううん…私は『メン』

あまりの事に涙が零れ落ちた。

「なんでキミが謝るんだ？」

彼は飛ぶペンギンでも見るよつな、不思議そつな顔をしていた。

「此処に呼ばれた時、今日は何処にも連れて行つてくれないんだな  
つて…

でも仕方ないつて…此処で我慢しよつて思つたの…。

でも…こんな事してくれてたんだなつて…やつ思つたら…  
つ

最後まで言えなかつた。彼があまりにも強く抱きしめたから。

「……泣かないで……なんか困る……」

彼は自分の胸に、私の頭を抱きながら言った。甘い吐息が耳につぐ。

「…………無理だよ…………。だって…………前よつも…………」

「…良かつたら、ケーキ食べてみて」

変わらぬ笑顔で彼は言った。

「うん」

フォークを刺して「ぱく」一口食べてみた。

「んー！ おこしー！ー！」

見た目はお好み焼きみたいで、ちょっとアレだけど、本当に美味しい  
かつた。

「良かつた……」

隠し味に「海苔の佃煮」入れといて良かつたよ

「何入れちゃつてんのー?」

(後書き)

メリークリスマス

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2925d/>

---

手作りだから…汚くてゴメン。

2010年10月29日13時47分発行